

気仙沼の風景が変わっちゃった、記憶が風化するの早いというのが実感。南三陸は最初にボランティアで行ったところでした。一戸建の並ぶ集団移転地に移植した熊谷桜に因んでの「桜ヶ丘団地」の命名は素晴らしいです。(柴崎雅代さん)

『朝日新聞』他に掲載された「花のお嫁入り」参加者募集記事に応じて、初回より都下から参加。

埼玉県南で行政職にあり、縁あって熊谷市民となり、貴重な郷土史を学びました。懇親会で銘酒「蒼天傳」を知りましたが、本日、南三陸復興商店街で買い求めることができました。(賀集正喜さん)

初参加。横田代表主宰の気功教室に学ぶ。

毎回参加してきました。たくさんの桜の木々、これからずっと、すくすく育てほしいです。(大川佐知子さん)

桜ファンクラブベテラン会員。植樹時のグループリーダーを担う。

熊谷市郷土文化会会員ですが、気仙沼に「熊谷姓」が多いことにびっくりしました。今回、たくさんの事例を教えられました。(榎本文岳さん)

旧制熊谷中学同級生の大澤さんの誘いで初参加。熊谷市立の小学校教師を歴任後、地域でバスケット指導他。

帰郷後、北の恋人岬公園を一人で立ち上げた佐藤良夫さんの心意気は、まさに妻沼と同じ「縁結び」の心。南三陸 311 メモリアルでのプログラムを設定してくれた現地観光協会の西田さんは、八木橋勤務時代にお世話になったかたのお嬢さんで、こちらまで縁に感じ入りました。(黒澤茂さん)

直実大好き会草創スタッフ。熊谷歌舞伎の会会員として2012年6月、復興支援「一谷嫩軍記」気仙沼公演に出演。

体調に不安もあり、物見遊山では失礼と思いながら今回も参加できました。来春に心を向けています。震災直後から関わっている支援の思いを新たにしました。(林秀子さん)

初回から参加のスタッフ。妻沼レディスリーダー。他団体でもいち早く被災地支援に入り、妻沼ならではの活動をまとめてきた。

参加者からの一言

両市の緑の深さ、気仙沼の人々の郷土愛に心動かされました。(野川雅敏さん)

埼玉県羽生市 野川染織代表。下川上愛染堂再建を機に、染織に携わる横田会長と親交を深める。

今春、「さくらシンポジウム」熊谷開催。気仙沼側参加者と交流できました。震災直後から何度も現地に通い、自分なりの復興支援を心がけています。別の会はリーダーの高齢化で解散しましたが、この間培ってきたコネクションを大切にボランティアを続けます。この後も2回、当地を訪問します。(井上信男さん)

花のお嫁入りスタッフ。桜ファンクラブ副会長。定年退職後、TV放送で会の活動を知り即、仲間入り。Facebookを駆使し熊谷・気仙沼両市に友達の輪を広げている。

私たちの活動は、舞台の基礎作り。両市民が様々な演目で共演できることを夢見ます。(重竹淳一さん)

花のお嫁入りではディレクター役。熊谷青年会議所時代に「桜ルネサンス」論文をまとめた桜ファンクラブ生みの親にして直実大好き会草創スタッフ。

今回も現地の人達の声を聞いて回りました。専門家として、養生のため、各現場に仲間と通いたいと目論んでいます。(大澤順さん)

元熊谷市職員。都市計画担当の任にあり第一線の若手として戦後復興を担った。熊谷市の樹木、中でも桜と樺への思い入れは深く、肥後熊谷樺の苗を宝鏡寺に移植すべく育成中。

故田倉米造副会長の頃から長い間、熊谷市郷土文化会では、直実→直家→直宗公(奥州熊谷氏始祖)の史実を実地調査研究してきました。今回は中館裏側の絶壁も確認できました。三つの館がトライアングルで整備されたと願います。今年は寶鏡寺で立派な直宗公補任八百年遠忌追善供養が行われ、感激です。(平井隆さん)

花のお嫁入り事務局スタッフ。熊谷氏と熊谷館他に纏わる史料作成。熊谷市郷土文化会副会長、元熊谷市文化センター館長。

秋葉太鼓のあの小さな子の太鼓の撥、細く短めにしてあげたらいいんだけどな(新島章夫さん)

直実大好き会草創スタッフ。熊谷山車屋台祭研究会会長。クマガヤ工芸を構え、会の法被のデザイン、苗木のプレート圖案を担当。

植樹式、祭太鼓で歓待してくれた中の幼児の姿、懇親会で同席した漁業関係者のナマの被災体験、南三陸町役場女性職員避難勧告現場の遺構、過去の植樹プレートに、過去・現在・未来を、改めて心に焼き付けました。(成澤美枝子さん)

環境保護団体所属。自然保護、ボランティアなどに興味があり、2回目の参加。